

20:1 苦難の日に【主】があなたにお答えになりますように。ヤコブの神の名が、あなたを高く上げますように。

20:2 主が聖所から、あなたに助けを送り、シオンから、あなたをささえられますように。

20:3 あなたの穀物のささげ物をすべて心に留め、あなたの全焼のいけにえを受け入れてくださいますように。 セラ

20:4 主があなたの願いどおりにして下さいますように。あなたのすべてのはかりごとを遂げさせて下さいますように。

20:5 私たちは、あなたの勝利を喜び歌いましょう。私たちの神の御名により旗を高く掲げましょう。【主】があなたの願いのすべてを遂げさせて下さいますように。

20:6 今こそ、私は知る。【主】は、油をそそがれた者を、お救いになる。主は、右の手の救いの力をもって聖なる天から、お答えになる。

20:7 ある者はいくさ車を誇り、ある者は馬を誇る。しかし、私たちは私たちの神、【主】の御名を誇ろう。

20:8 彼らは、ひざをつき、そして倒れた。しかし、私たちは、立ち上がり、まっすぐに立った。

20:9 【主】よ。王をお救いください。私たちが呼ぶときに私たちに答えてください。

### はじめに

詩篇 20 篇と 21 篇とはひとくくりにすることができます。詩篇 20 篇は戦いの前の祈り、そして、詩篇 21 篇は、戦いに勝利した後でささげる賛美です。

多くのクリスチャンが神に祈ります。そして、神は祈りに必ず答えて下さいます。

私たちの願うときに期待したようなかたちでは答えてくださらないかもしれません。

しかし、私たちが聖書の神と一対一の関係を築いているなら、神は私たちの祈りを聞かれます。

そして、必ずしも私たちの願うようにはなりません、みこころに従って祈りに答えて下さいます。

神が私たちの心の叫びに答えてくださっても、私たちは御名にふさわしい賛美をささげないことがあります。

ですから、私たちは詩篇 20 篇と 21 篇をひとつのセットとして考えなくてはなりません。

一生懸命祈っているなら、祈りをとおして神のみこころが成就されたあかつきには一生懸命神を賛美すべきです。

ダビデは、何度も軍を率いて出陣しました。けれどもそれは、他国人の武装攻撃から自身を守るための戦いでした。

ダビデは領土獲得や王国の拡大のために戦争をしかけたことは一度もありません。

ダビデは、主の戦いを戦っていたのです。

王の王、主の主にならなれたのです。

私たちクリスチャンも、人生に多くの戦いがあります。

それらの戦いは、武力による戦いではなく、霊の戦いです。

### コリント第二 10 : 3-6

10:3 私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。

10:4 私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。

10:5 私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、

10:6 また、あなたがたの従順が完全になるとき、あらゆる不従順を罰する用意ができています。

パウロはこの個所で、霊の戦いのために神が与えてくださる武器は強力だと断言します。

霊の戦いを自力で戦えば、最初から負け戦です。  
しかし、霊の武器を使って霊の戦いを戦うなら、勝利は約束されています。

詩篇 20 篇は 4 つにわけて学ぶことができます。

1. 守りを求める祈り (1-5 節)
2. 指揮者による信仰告白 (6 節)
3. 信頼という結論 (7-8 節)
4. 救いを求める叫び (9 節)

### 1. 守りを求める祈り (1-5 節)

戦いに関するユダヤの律法では、軍隊の出陣前に、指揮官も兵士もまず自らを神にささげることが要求されました。

#### 申命記 20 : 1-9

20:1 あなたが敵と戦うために出て行くとき、馬や戦車や、あなたよりも多い軍勢を見ても、彼らを恐れてはならない。あなたをエジプトの地から導き上られたあなたの神、【主】が、あなたとともにおられる。

20:2 あなたがたが戦いに臨む場合は、祭司は進み出て民に告げ、

20:3 彼らに言いなさい。「聞け。イスラエルよ。あなたがたは、きょう、敵と戦おうとしている。弱気になってはならない。恐れてはならない。うろたえてはならない。彼らのことでおじけてはならない。

20:4 共に行って、あなたがたのために、あなたがたの敵と戦い、勝利を得させてくださるのは、あなたがたの神、【主】である。」

20:5 つかさたちは、民に告げて言いなさい。「新しい家を建てて、まだそれを奉献しなかった者はいないか。その者は家へ帰らなければならない。彼が戦死して、ほかの者がそれを奉献するといけないから。

20:6 ぶどう畑を作って、そこからまだ収穫していない者はいないか。その者は家へ帰らなければならない。彼が戦死して、ほかの者が収穫するといけないから。

20:7 女と婚約して、まだその女と結婚していない者はいないか。その者は家へ帰らなければならない。彼が戦死して、ほかの者が彼女と結婚するといけないから。」

20:8 つかさたちは、さらに民に告げて言わなければならない。「恐れて弱気になっている者はいないか。その者は家に帰れ。戦友たちの心が、彼の心のようにくじけるといけないから。」

20:9 つかさたちが民に告げ終わったら、将軍たちが民の指揮をとりなさい。

戦いを司るユダヤの原理からわかるように、何か他のことに気が取られた状態で人が出陣することを神は望んでおられませんでした。

申命記 20 : 1-9 には、新しい家、新しい商売や職業、結婚したばかりの妻、さらには恐れて弱気になっている心までが、気を取られる他の事柄として挙げられています。

旧約聖書の時代に軍に加わって出陣するために、神の軍勢が全身全霊で与えられた務めに励むことを神は望まれました。

その務めとは、神の選ばれた民を敵の攻撃から守ることです。

これを現代の私たちに当てはめるなら、武装した戦いではなく、霊の戦いを戦うことです。霊の戦いも、旧約聖書の時代に武器を持って出陣したのと同様に全身全霊で臨まなくてはなりません。

長時間、または長期間、集中して祈るには、驚くほどの献身が必要です。

ひとりで祈ることもできますが、少人数のグループや 3 人ほどでいっしょに祈るほうがずっとうまくいきます。

モーセが 300 万人の民を率いてエジプトを出たとき、最初に直面した戦いを覚えておられるでしょうか。

### **出エジプト記 17 : 8-16**

17:8 さて、アマレクが来て、レフィディムでイスラエルと戦った。

17:9 モーセはヨシュアに言った。「私たちのために幾人かを選び、出て行ってアマレクと戦いなさい。あす私は神の杖を手を持って、丘の頂に立ちます。」

17:10 ヨシュアはモーセが言ったとおりにして、アマレクと戦った。モーセとアロンとフルは丘の頂に登った。

17:11 モーセが手を上げているときは、イスラエルが優勢になり、手を降ろしているときは、アマレクが優勢になった。

17:12 しかし、モーセの手が重くなった。彼らは石を取り、それをモーセの足もとに置いたので、モーセはその上に腰掛けた。アロンとフルは、ひとりはこちら側、ひとりはこちら側から、モーセの手をささえた。それで彼の手は日が沈むまで、しっかりそのままであった。

17:13 ヨシュアは、アマレクとその民を剣の刃で打ち破った。

17:14 【主】はモーセに仰せられた。「このことを記録として、書き物に書きしるし、ヨシュアに読んで聞かせよ。わたしはアマレクの記憶を天の下から完全に消し去ってしまう。」

17:15 モーセは祭壇を築き、それをアドナイ・ニシと呼び、

17:16 「それは『主の御座の上の手』のことで、【主】は代々にわたってアマレクと戦われる」と言った。

この箇所は、3 人の人が祈った祈りの力をはっきりと示す例です。

モーセはアロンとフルの助けがなければ一日中祈り続けることはできなかったでしょう。

ヨシュアも、祈りによる後方支援がなければ、戦いに勝つことはできなかったでしょう。

ですから、ダビデが守りを求めて祈ったのは当然です。彼は祈りの力を信じていました。

私がロンドンで牧師だったとき、教会リーダーたちと一緒に、3 日間の断食と祈りのリトリートに出かけました。

3 日間、水だけを飲んで祈り続けるのはとても大変でした。

私たちが集まったのは、教会の働きの構成の将来を考えるためでした。

私たちにとって、それは霊の戦いに出る前の祈りでした。私たちは、イエス・キリストのためにたましいを勝ち取ることを願っていました。

その後の 5 年で、神の恵みによって何人かの人が救われました。私は、この期間に神がなしてくださった御業を喜びました。

1985-1987 年、私はスコットランドのエジンバラにあるフェイスミッションバイブルカレッジであることを学びました。それは、クリスチャン人生における何事でも、前進する唯一の道は祈りだということです。

私たちが祈りに満ちていれば、誰かに絞られても、出てくるのは聖霊です。

長年世界中で有名だった伝道者ビリー・グラハム師は、亡くなる数年前にインタビューを受けました。

その中で、次のような質問がありました。「ビリー先生、これまで伝道者として実り多い人生を過ごされましたが、もし過去に戻って何かを変えられるとしたら、何を変えますか。」するとグラハム師は答えました。「もっと祈ります。神とともに過ごす祈りの時間をもっとたくさん取ります。」

1-5 節には、このように祈る人が考える事柄がいくつか挙げられています。

第一に、苦難の日です。(1 節)

悩みがなければ祈ってはいけないわけではありませんが、悩みや問題があるなら、なおさら祈る必要があります。

## **詩篇 46 : 1**

46:1 神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。

詩篇 46 : 1 は原語のヘブル語では、「神は豊富で手に届く助けを与えてくださる」と語ります。

私たちが神に助けを求めて祈る時、神は私たちひとりひとりのために豊富な助けを届けてくださるということ覚えておく必要があります。そして、その助けはすぐに届くのです。

第二に、1 節で、祈る人はヤコブの神に信頼を置きます。

「名」は、その人の存在と権威を示します。

ヤコブの神の名とは、イスラエルの昔からの神を指します。

つまり、ご自身の民をエジプトから救いだされた神です。

## **出エジプト記 19 : 3-6**

19:3 モーセは神のみもとに上って行った。【主】は山から彼を呼んで仰せられた。「あなたは、このように、ヤコブの家に言い、イスラエルの人々に告げよ。

19:4 あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。

19:5 今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中にあつて、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。

19:6 あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。これが、イスラエル人にあなたの語るべきことばである。」

原語のヘブル語では、神がご自身の民を守られ、エジプトから民が救いだされたときのように守ってください、という思いがこの部分に示されています。

第三に、2 節で詩篇の著者は、聖所からの助けを求めています。

それは、神の住まわれる場所です。

ダビデは、戦いを始める前に、祈りが答えられたという確信を求めています。

戦いに出かける前に、神のご臨在を求めているのです。

エペソ 6 : 10-17 で、パウロは霊の戦いに必要な霊の武具を挙げています。そして、18 節で、すべての武具を着けたうえで絶えず祈らなければならないと語ります。

私たちは祈りをとおして神のご臨在を体験できるのです。

祈りをとおして、勝利の確信を得るのです。

第四に、詩篇の著者は 3 節で、ダビデがそれまでにささげたすべてのささげ物やいけにえに言及します。

ダビデは幾度となく神にいけにえをささげ、あらゆる問題に直面しながらも神を礼拝しつづけました。

3 節の後半には、全焼のいけにえについて記されています。

戦いの前に神に全焼のいけにえをささげて準備をすることについて、ダビデに模範を示したのはサムエルです。

## **サムエル記第一 7 : 8-10**

7:8 そこでイスラエル人はサムエルに言った。「私たちの神、【主】に叫ぶのをやめないでください。私たちをペリシテ人の手から救ってくださいるように。」

7:9 サムエルは乳離れしていない子羊一頭を取り、焼き尽くす全焼のいけにえとして【主】にささげた。サムエルはイスラエルのために【主】に叫んだ。それで【主】は彼に答えられた。

7:10 サムエルが全焼のいけにえをささげていたとき、ペリシテ人がイスラエルと戦おうとして近づいて来たが、【主】はその日、ペリシテ人の上に、大きな雷鳴をとどろかせ、彼らをかき乱したので、彼らはイスラエル人に打ち負かされた。

全焼のいけにえでは、ささげ物全部が神のものです。（レビ記 3 : 9-17）  
これを新約聖書に置き換えるなら、ローマ 12 : 1-2 です。

### ローマ 12 : 1-2

12:1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。

12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

私たちが自らの体を「生きた供え物」として主にささげるなら、私たちは神のみこころをなすために変えられます。

生き方を根本的に変え、明け渡すことによるのみ、私たちはサタンの力に対抗する戦いの備えができます。

第五に、私たちの心の願いと計画や目的についてです。

私たちの心が神のみこころにそっているなら、神が私たちに与えたいと望まれる物事を私たちは求めます。

ダビデの願いは、神の民を守るために戦いに勝つことでした。そして、神のご計画を知りたいと願っていました。

これは、大切な祈りです。神のご計画を祈り求める祈りです。

ヨシュアが約束の地を制覇して邪悪な人々を滅ぼすための最初の戦いに挑んだとき、その戦略はあまり賢明なものとは思えませんでした。

けれども、それが神のご計画でした。神が命じられ、ヨシュアはそれに従ったのです。

### ヨシュア記 6 : 1-5

6:1 エリコは、イスラエル人の前に、城門を堅く閉ざして、だれひとり出入りする者がなかった。

6:2 【主】はヨシュアに仰せられた。「見よ。わたしはエリコとその王、および勇士たちを、あなたの手に渡した。

6:3 あなたがた戦士はすべて、町のまわりを回れ。町の周囲を一度回り、六日、そのようにせよ。

6:4 七人の祭司たちが、七つの雄羊の角笛を持って、箱の前を歩き、七日目には、七度町を回り、祭司たちは角笛を吹き鳴らさなければならない。

6:5 祭司たちが雄羊の角笛を長く吹き鳴らし、あなたがたがその角笛の音を聞いたなら、民はみな、大声でときをあげなければならない。町の城壁がくずれ落ちたなら、民はおのおのまっすぐ上って行かななければならない。」

うまい戦略とは思えないものですが、それが神のご計画で、結果、成功しました。

あなたの人生に対する神のご計画は何でしょう。

あなたのこの一年に対する神のご計画は何でしょう。

今あなたが直面している問題や戦いに対する神のご計画は何でしょう。

聖書に具体的な答えがないなら、聖書を読むときに心の中でささやかれる神の御声に耳を傾けなくてはなりません。

5 節で、ダビデは成功を確信し、すでに神をたたえて、勝利の旗を掲げます。エリシャも、戦いを挑まれたとき、同じような確信を持っていました。

### **列王記第二 6 : 15-17**

6:15 神の人の召使いが、朝早く起きて、外に出ると、なんと、馬と戦車の軍隊がその町を包囲していた。若い者がエリシャに、「ああ、ご主人さま。どうしたらよいのでしょうか」と言った。

6:16 すると彼は、「恐れるな。私たちとともにいる者は、彼らとともにいる者よりも多いのだから」と言った。

6:17 そして、エリシャは祈って【主】に願った。「どうぞ、彼の目を開いて、見えるようにしてください。」【主】がその若い者の目を開かれたので、彼が見ると、なんと、火の馬と戦車がエリシャを取り巻いて山に満ちていた。

神は、このような祈りの生活を私たちに求めておられます。

私たちが戦いに出るまでに確信を持って祈ることを、神は望まれます。私たちが神を信頼し、みこころにゆだね、最終的に勝利するのは神であるという確信をもつことを、神は望まれます。

また、戦いに出る前から私たちが主の勝利を確信して賛美するほどであってほしいと望まれます。

## **2. 指揮者による信仰告白。(6 節)**

6 節で、ダビデはとても肯定的な信仰告白をします。彼は、「今こそ、私は知る。」と言います。

彼は、すでに戦いに勝利していると心に確信が得られるまで祈りました。

しっかり祈って神にすべてを明け渡すまで、決して悪の力に立ち向かってはいけません。

そして、ダビデのように、神が答えてくださり、この状況から私を救いだしてくださいと

「今こそ、私は知る。」と言えるようになるまで、悪の力に立ち向かってはいけません。

6 節には、「今こそ、私は知る。【主】は、油をそそがれた者を、お救いになる。」とあります。

ここで使われたヘブル語の単語は、「マシアハ」で、救い主を意味するメシアという単語の語源です。

これは、王を指す単語でもあります。

もちろん、戦いで勝利を得る王はダビデです。

しかし、詩篇の著者は同時に、救い主イエスが得られる勝利を指し示していました。イエスは戦いに出て、この世の失われた人々のために救いを確実なものとしてくださいました。

### **エペソ 1 : 19-23**

1:19 また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。

1:20 神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、

1:21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。

1:22 また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。

1:23 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

私たちには確信が必要です。とくに、何らかの形でリーダーや指導者として奉仕している人は、私たちが主に従い、主のご計画と目的にゆだねるなら、神はすべてを支配し、敵を打ち倒すことができになるという確信が必要です。自分の考えや期待があると、なかなかそのようにゆだねきって確信を得ることはできません。あなたは、みことばのとおり私たちを救う力が神にはあると確信していますか。

### 3. 信頼という結論 (7-8 節)

ダビデは、信頼をどこにおいているか語ります。

**詩篇 20:7** ある者はいくさ車を誇り、ある者は馬を誇る。しかし、私たちは私たちの神、【主】の御名を誇ろう。

クリスチャンとして生きる中で、私たちにはふたつの選択肢があります。自分の力を頼りにするか、神の力を頼りにするかです。あなたは今、何を頼りにしているでしょう。

#### コリント第二 10 : 3-5

10:3 私たちは肉にあつて歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。

10:4 私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。

10:5 私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、

霊の戦いでは、霊の武具だけが役に立ちます。

ですから、私たちは自分の持てるものをすべて明け渡し、神の力に頼る必要があります。どんな強靱な人もどんな軍隊も、いつの日か、イエスのもとにひれ伏すのです。

#### ピリピ 2 : 5-11

2:5 あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。

2:6 キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、

2:7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、

2:8 自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。

2:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。

2:10 それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、

2:11 すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。

### 4. 救いを求める叫び (9 節)

9 節には、出陣前のダビデの最後の叫びが記されています。

**詩篇 95:3** 【主】は大いなる神であり、すべての神々にまさって、大いなる王である。

**詩篇 24:10** その栄光の王とはだれか。万軍の【主】。これぞ、栄光の王。 セラ

主が私たちの王でなければ、勝利は得られません。

ダビデが戦略を練っても、その結果を決められるのは主ご自身だけです。

簡単な戦いはありません。若かったり、置かれた状況に落胆していたりすればなおさらです。けれども、神の主権を信頼するのはすばらしいことです。

私もこれまでの人生で何度か、難局に直面しました。神は私たち夫婦を見捨てられたのかと初めて思ったとき、誰かが私たちに言いました。神の主権にしがみつくしかない、と。当時、その助言を素直に聞き入れられませんでしたでしたが、その人の言うとおりでした。日本での宣教師としての4年間の任期を終え、日本にもう一度戻る道を人の手によって閉ざされたように感じていましたが、それは神の主権の業だったことを知りました。日本に戻ってOICで仕える日のために、私たちを備えるためです。再来日に備えて神が私たち夫婦を整えるのに、25年もかかりました。人生でつらいことが起こった時、私たちは神のご計画と主権によるみこころを信頼しなくてはなりません。神は私たちを愛し、私たちを知り、私たちを心にかけてくださるからです。神にすべてを任せる人に、神は最善を与えてくださいます。